

**(1) 全世界：COVID-19の流行状況**

欧米諸国では11月に入ってもCOVID-19の患者数増加は見られていません（米国CDC 24-11-23、ヨーロッパCDC 24-11-22）。一方、日本では11月中旬から全国的に患者数が増加傾向にあります（厚生労働省 24-11-22）。ウイルスの種類としてはオミクロン株 JN.1 系統の XEC 型が、世界的に増えています（WHO corona 24-11-6）。今後、北半球では XEC 型が中心になり、冬の流行が起こるものと予想されます。

**(2) 全世界：エムボックスの流行状況**

アフリカでのエムボックスの流行状況は最近1ヶ月で大きな変化がみられておらず、重症化しやすい1型の患者は、コンゴ民主共和国、ブルンジ、ルワンダ、ウガンダなどで発生しています（WHO Mpox 24-11-21）。アフリカ以外では、この1ヶ月にインド、英国、米国で1型の患者が確認されており、英国では4人の集団感染が発生しました（英国 Health Security Agency 24-11-4）。

**(3) アジア：デング熱の流行状況**

東南アジアでは11月になり、デング熱の流行が収束に向かっています（WHO 西太平洋 24-11-14）。各国ともに、患者数は例年並みか少ない数でした。一方、南アジアでは11月に入っても患者発生が続いており、インド、パキスタンなどでは例年よりも患者数が増えています（WHO 南東アジア 24-11-13、米国CDC 24-11-15）。

**(4) アジア：麻疹の流行状況**

アジアではここ数年、各地で麻疹の流行が発生しています。米国CDCが最近発表した高リスク国には、インドネシア、フィリピン、マレーシア、タイ、スリランカ、パキスタンなど東南アジアや南アジア諸国とともに、中東のサウジアラビアやトルコも含まれています（米国CDC 24-11-21）。こうした国々に滞在する場合、麻疹罹患歴が無く、ワクチンを2回接種していない人は、追加接種を受けるようにしましょう。

**(5) アフリカ：エチオピアでのマラリア流行**

エチオピアでは今年になりマラリア患者が730万人発生し、1000人以上が死亡しました（WHO 24-10-31）。過去7年で最多の患者数になります。重症化する熱帯熱マラリアが大多数で、北部のアムハラ地域や南部のオロミア地域で多くなっています。エチオピアは日本からの直行便もあるため、近年観光客が増えており、滞在中は蚊の対策などマラリア予防を実施することが必要です。

**(6) 北米：米国、カナダでH5N1型患者発生が続く**

米国では今年、鳥インフルエンザ H5N1 型ウイルスの患者が発生しており、11月下旬までに55人となりました（米国CDC 24-11-22）。この1ヶ月は、カリフォルニア州を中心に20人以上発生しています。患者の大多数はウシや家禽の牧場労働者で、症状は結膜炎や上気道炎など軽度です。一方、カナダのプリティッシュ・コロンビア州では、11月初旬に10歳代のH5N1型患者が発生し、重症になっています（カナダ保健省 24-11-13）。この患者はウシや家禽との発病前接触が否定されており、感染源が不明とのことです。

**・日本国内での輸入感染症の発生状況（2024年10月14日～11月10日）**

最近1ヶ月間の輸入感染症の発生状況について、国立感染症研究所の感染症発生動向調査を参考に作成しました。

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/idwr-dl/2024.html>

**(1) 経口感染症：**輸入例としては細菌性赤痢2人、腸管出血性大腸菌感染症10人、腸チフス3人、パラチフス1人、E型肝炎1人、ジアルジア症1人が発生しています。腸管出血性大腸菌感染症は、韓国での感染が前月の51人から6人に大幅減少しました。

**(2) 昆虫が媒介する感染症：**デング熱は13人発生し、前月（26人）より減少しました。感染国はネパール4人、インド3人、バングラデッシュ2人と南アジアが多くなっています。今年のデング熱の累積患者数は207人で、昨年同期の144人に比べ増

加しています。チクングニア熱の患者は2人で、感染国はインドとフィリピンでした。マリアの患者はこの期間中は発生しませんでした。

**(3) その他の感染症：**麻疹の患者が1人発生し、ベトナムでの感染でした。